

平成29年度

# 事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

ウィング居宅介護支援事業所

## I. 施設関係

### 1. 特別養護老人ホーム

#### (1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、39 名の入所者数であった。月平均利用者実人員は 36.8 人と、昨年と比較し、3.7 人の増加である。長期入院などによる退所者は 0 名、新規利用者は 8 名である。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 85.4 歳、女性 87.9 歳であり、男女合計の平均年齢は 87.6 歳である。なお、特養の年間平均稼働率は 92.08% であった。28 年度 82.65% に比べると、稼働率は 10% 近く上がっている。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
平均年齢	88.2 歳	87.4 歳	87.6 歳
平均介護度	4.21	4.34	4.48
年度末平均人数	39 人	36 人	39 人
延べ定員数	14,640 人	14,600 人	14,600 人
1 日平均利用者数	35.9 人	33.1 人	36.8 人
稼働率	89.56%	82.65%	92.08%

稼働率増加の理由として

- ①本年度は入院者が少なく、比較的安定した状態が続いていた。利用者の異常が見られた際は、速やかに介護・看護・嘱託医の連携がとられ、重度化にならないよう注力した。
- ②新規利用者は 8 人、退所者は 5 人である。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多いが、本年度は環境への適応が順調に行われた。入所前情報、入所後情報等が、多職種間で速やかに情報共有が図られ、安心できる環境づくりが実施できたことが大きい。
- ③空床については、前年度に続き周辺環境の激化により速やかに埋まらなかった。月島、日本橋地区の地域密着型特養の新設、区立マイホームはるみの 20 床増設、ショートステイ専門施設の増加等、年々競争は激化してきている。隣接区においても、新規特養、老健の開設によりリピーターの減少が著しく見られた。稼働率を上げるためには、利用者の健康管理に留意し早期受診を心がけ、入院による空床を出さないこと。更に、周辺環境の情報収集に努め、速やかに対応策を考案することが必要である。ショートステイの空き情報はもとより、緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズに対応できるだけの層の厚い体制を図り、利用者の増員を図ってゆくことが望まれる。

## (2) 事業実績について

利用者の平均介護度は28年度の4.34に対し、29年度は4.48とやや高くなっている。  
(別表2参照) 平均介護度が上がっている理由として、利用者の在住期間(平均3.6年)が延びていることや、新規利用者においては、医療的ニーズ等を含め、重度者の受入れが主となっていることが挙げられる。特養での対策としては、適切な健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに、利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることである。

そのため、①健康管理の徹底 ②衛生管理の徹底 ③日常生活での異常に対する早期発見、早期対応の徹底があげられる。29年度においてもインフルエンザやノロウィルスの流行に備え、空気除菌清浄機の活用、居室トイレの除菌用ウォシュレット、居室等への除菌剤の配置などを強化した。

また、本年度も利用者の心身の健康管理の層を厚くした。嘱託医による身体の定期的な健康管理に加え、精神科医による精神面のケア、口腔においては、歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持に取組んだ。利用者の嚥下においては、緩やかな低下が見られており、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力した。

多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図ってゆく。



チェアビクス  
尿漏れ予防体操



言語聴覚士による  
言語リハビリ



千葉歯科訪問診療  
定期的な口腔ケア



有資格介護職による  
喀痰吸引

### (3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組んだ。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動、各種の行事やボランティア、インターンシップの積極的な受入れを行い、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努力した。本年度もボランティア、インターンシップとの交流機会を多くもち、普段接することの少ない若年層との世代間交流を通して、利用者の感性に温かい刺激を与えるものとなった。

レクリエーションでは、セラピードッグ、音楽療法、書道、そろばん、チェアピクス、ダンスセラピー、健康吹き矢等々、心身機能の活性化に重点を置いた活動に意欲的に取り組んできた。また、コミュニケーションロボットの活用は、利用者の精神的ケアに大変有効であった。コミュニケーションロボットとの触れ合いは、利用者、特に認知症利用者にセラピー的効果をもたらし、不安感の緩和や、癒しに有効であった。更にコミュニケーションロボットを介して利用者間の交流が多くなり、会話が増えたこと、食堂で過ごす時間が増えたことは、利用者の生活の質を向上させ、認知症の進行を防ぐ上でも効果を見せている。コミュニケーションロボットについては、利用者の精神的ケア、不活発な生活予防、認知症予防等、様々な活用が可能であり、今後ますます期待が持てる。

リハビリテーションは、機能訓練担当の看護師、介護職、理学療法士、言語聴覚士、栄養士との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施



することができた。「利用者の自己実現を日々の生活に活かしてゆく」を目標とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取り組んだ。



アザラシ型ロボット・パロとの  
スキンシップ



イヌ型ロボット・aibo との  
触れ合い

## 2. 短期入所生活介護

### (1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年引き続き比較的に利用しやすい状況であった。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供している。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげている。

周囲の経営環境としては、区立特養「マイホームはるみ」「マイホーム新川」、区立の老健施設の6ヶ月長期利用、ユニット型特養「晴海苑」、そして平成25年11月開設した地域密着型特養「ケアサポートセンターつきしま」、平成26年9月開設「ケアサポートセンター十思」、本年度は「マイホームはるみ」の20床増設等、年々経営環境は厳しい状況になってきている。一方、本年度の特徴として2ヶ月前の申込みが激減していることが挙げられる。ショートステイの申込みは通常2ヶ月前を基本としているが、この申込み状況が、これまでと様変わりしていることが顕著に伺える。2ヶ月前の申込みでは、これまでの実績の半数くらいだが、1ヶ月前くらいから徐々に増え続けてゆく傾向である。理由としては、家族の生活スタイルの変化・ニーズの多様化により「2ヶ月前の申込み」という、決められた枠にはまらない家族のニーズが増えてきたことである。別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年

度に対して 29 年度は 103.48%と約 3%の増加となっている。ショートステイ単独での年間稼働率は、179.45%であり、昨年度より 39%減少していることから、特養の稼働率の増加が全体のベッド稼働率を上昇させたと言える。

表 2 前年度との比較 定員 6 名（空床利用）

項 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
年度末平均年齢	84.4 歳	82.7 歳	82.8 歳
年度末平均介護度	3.64	3.36	2.98
年度末平均人数	45 人	45 人	38 人
延べ定員数	2,196	2,190 人	2,190 人
1 日平均利用者数	11.9 人	13.1 人	10.8 人
稼働率	197.91%	218.90%	179.45%

## (2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機（介護・ロボット）を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能とした。

介護：身体の状態に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供している。

入浴：週 3 回以上。身体の状態に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っている。

機能回復訓練：個別機能回復訓練、機能訓練指導員による小集団訓練・レクリエーション・音楽療法・セラピードッグなど。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導。

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応

## (3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決した。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。
- ・希望する日にショートステイが混んでいて予約できない。

## (4) 一年の状況と今後の課題

連休や行事のある時など、希望の日にちに予約しづらくなっているという現状があ

る。抽選に漏れてしまった方についても、キャンセル待ちの登録など、空きベッドが出た時にすぐ利用できるような連絡体制の確立と情報の提供を徹底していくことが必要である。また、空床を速やかに埋めるということが厳しい状況となってきた理由として

①周辺環境の変化によるところが大きい。区立特養「マイホームはるみ」の20床増設を始め、地域密着型特養、ショートステイ専門施設、更に隣接区においては、新設の老健、特養の開設等、競争激化の状況である。

②本年度の特徴として、2ヶ月前の申込みでは例年の半数くらいであったが、家族の仕事や、介護者の入院、利用者の認知症進行による家族のストレス等の理由による緊急ショートニーズが大変多くあった。また、2ヶ月前では予定が立たない、という理由で申込みを控えていた家族も多く、1ヶ月前くらいから、徐々に申込みが増えてきた。在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきており、これらのニーズに対応できるだけの体制が必要である。引続き2ヶ月前の申込みを行いつつ、並行して緊急ショート、医療的ニーズ等に対応してゆくことが、今後の課題と言える。

いずれにしても、一人ひとりの状況にあわせたきめ細かいケアを行えるように、個々のニーズの把握に努めること、今後もまた利用したいと思えるような魅力あるサービスを提供すべく、サービスの質の向上に努めることが急務である。

### 3. 通所介護

#### (1) 利用者の状況

23年度はデイサービス見直し編成の年度でもあった。22年より、23年度にかけて利用者数の落ち込みが著しくみられた。その要因として、利用者のデイサービスへのニーズが、リハビリへと変わっていったことがあげられる。従来型のデイサービスからリハビリ型のデイサービスへと、利用者の意識の変化も顕著であり、家族もまた「リハビリのできるデイサービス」への期待を大きくした。

「新とみ」ではこうした利用者、家族のニーズを受け、23年4月より理学療法士を配置し、毎曜日利用者が個別にリハビリを受けられる体制を整えた。外部的には居宅介護支援事業所等にリハビリの案内チラシを配布、またデイサービス見学者、体験利用者を積極的に受け入れ、リハビリ体験を試みた。こうした外部へのはたらきかけが功を奏し、利用者は徐々に増えていった。本年度もリハビリを目的とした利用者が半数以上を占めている状況である。しかしながら、一時期の利用者増加の様相は見られず、リハビリを目的とした利用においては一巡化した感がある。周辺環境はリハビリデイと言われるリハビリ専門のデイサービスが増加し、数年来競争激化の状況となっている。食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に努めた。

引き続き利用者のニーズに応えるべく力を入れて取り組んでゆく方向であり、併せて、在宅生活への支援の一役になれるようなサービスを構築してゆくことが望ましい。

医療的対応については前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいる。胃ろう 2 名、インスリン 2 名、バルーンカテーテル 3 名、痰吸引 4 名等、これら医療的対応に応じるため、看護師 2 名体制をとり、手厚いケアに努めている。今後医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題である。

また、訪問診療を利用している利用者も多く、訪問診療医、訪問看護師との連携も必要不可欠となっている。前年度同様、デイの看護師、相談員と、居宅のケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との協力体制づくりに取り組んだ。

29 年度の利用実人員は別表 8 のとおり 1,110 名、利用実人員は前年度と比べて減少した。稼働率は 70.86%と、昨年より約 15%の減少となっている。減少の理由として、本年度は入院、特養入所、老健入所が非常に多く、新規利用者を上回る人数であったことが挙げられる。新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ希望等、様々な理由による申し込みがある。また、延べ利用回数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均 7.9 回となり、前年よりも約 7%減少している。利用者の平均年齢は別表 7 のとおり男女合計の平均では 80.6 歳となっている。内訳では男性 78.9 歳、女性 82.1 歳で、前年よりもやや高くなっている。平均介護度は 2.91 と、前年とほぼ同様である。

デイサービスに係わる送迎利用率は 98.8%、入浴利用率は 82.9%となっている。

前述したとおり、特養・ショートに関しては既に 100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務である。

表 3 前年度との比較 定員 34 名

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
年度末平均年齢	80.1 歳	79.8 歳	80.6 歳
年度末平均介護度	2.94	2.95	2.91
実人数	1,233 人	1,237 人	1,110 人
延べ定員数	13,504 人	12,410 人	12,410 人
1 日平均利用者数	28.8 人	29.2 人	24.1 人
稼働率	77.92%	85.91%	70.86%

## (2) 運営状況

### ①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催している。また、食事サービスやお買い物代行などの在宅生活支援の



ための活動は継続中である。22 年度から始まった朝食サービスは、本年度も利用者や家族、ケアマネジャーから好評を得ている。特に独居の高齢者の生活を支えるひと役として、食事サービスは欠かせないものとなっている。前年度より始めた夕食サービスも引き続き実施している。夕食後、午後 7 時過ぎに送迎車で利用者を自宅まで送り届ける。朝食サービスから、夕食サービスまで、これらのサービス利用により、家族の負担軽減、且つ、在宅での生活維持を可能にしているといえる。

表 4 朝食サービス・持帰り弁当・夕食サービス利用人数

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月末

項 目	利用人数	延 数
朝食サービス	99	873
1 ヶ月平均	8.25	72.75
持帰り弁当	163	1,530
1 ヶ月平均	13.58	127.5
配食サービス	2	2
1 ヶ月平均	0.17	0.17
夕食サービス	95	557
1 ヶ月平均	7.92	46.4



朝食サービス  
食事風景



夕食サービス  
食事風景

また、送迎においては、階段昇降機(スカラモービル)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができた。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかった利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果であった。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日 2 名～4 名の利用者の昇降を行っている。

リハビリにおいては、周辺のリハビリ専門デイサービスの増加により、年々競争激化の様相であり、特色ある、きめ細やかなリハビリが求められる。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、朗読、ファッションショー、そろばん教室、介護予防運動、健康吹き矢、アロマセラピー、ダンスセラピー、リハビリヨガ等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されている。プログラムは特養、デイ合同のレクが多くあり、重度、軽度に関わらず、利用者の心身機能の活性化に大変効果をあげている。また、本年度もペッパーとのレクリエーションの時間を多く持ち、歌やゲーム、リハビリ等、ユニークなコミュニケーションタイムを創ることができた。コミュニケーションロボットとのかかわりは、海外メディアにも多く取り上げられている。



スカラモービル  
コンパクトタイプ



スカラモービル  
車イスタイプ



会話ロボット・ペッパーによる  
脳トレーニングレクリエーション



口腔ケアをアシストしてくれる  
ロボホン



バスハイクは、日頃外出する機会の少ない利用者に好評を博している外出レクである。お花見、紅葉狩りの他、毎回利用者の希望を取り入れた場所を企画し、感性豊かな時間を創るよう努めている。

「日々、感動を届ける」これが目標である。デイサービスで過ごす時間にひとつでも多くの感動を利用者に届けることができるよう、今後も目標としてゆきたい。

平成20年11月にスタートした「若年認知症デイサービス」は、「練馬若年認知症サポートセンター」へ活動の拠点を移行した。本年度も新とみデイサービスと連携しつつ、新たな取り組みを試みている。

この他、当期中に行った主な行事は以下の表5のとおりである。

表5 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見 桜を求めて、墨田川沿いのバスハイク 帰りがけに観た人形町の桜並木に、利用者は活気づく</li> <li>・春の大運動会 デイ、特養合同で玉入れ、輪投げ等に汗した</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鯉のぼりづくり</li> <li>・思い出の地巡りツアー 利用者の方の思い出の場所を巡りました</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスハイク 浅草雷門、スカイツリー、アサヒビール本社、墨田公演あじさい観賞 他 下町の季節感溢れる風情に参加者は感激していた。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り大会（地区の女性ボランティア4名）和太鼓に合わせて、浴衣姿のボランティアの季節感溢れる盆踊り、利用者も参加しての賑やかなひと時だった</li> <li>・スイカ割り大会 デイ、特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑気払い 日本橋演芸会の方たちと、暑さを忘れての演芸大会</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区健康福祉まつり参加(6回目)は、台風のため中止</li> <li>・秋の大運動会 特養、デイ合同の大運動会は、利用者が熱中するイベントだった。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉狩り 北の丸公園から神宮外苑のイチョウ並木までバスハイク。思い出深い利用者も多く、感動のひと時だった。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスコンサート ライオンズクラブ主催による、恒例のクリスマスコンサート。「てんでこ一座」が参加し、それは華やかなクリスマス会だった。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年会 利用者、職員との新年会は、カラオケによる紅白歌合戦、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。</li> <li>・ミステリーツアー 東京ゲートブリッジまでバスハイク。新年の澄み渡った彼に初富士がくっきりと浮かび、忘れられないバスハイクとなった。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月3日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会（参加家族他17名）新とみデイルームでの家族会は、利用者と家族、スタッフとのアットホームな家族会を開催できた。</li> </ul>



グレースシティチャーチのみなさんと  
多文化交流



『健康吹き矢』で腹筋と背筋を  
鍛えます



『ダンスセラピー』で健康づくり



『作業療法レクリエーション』で  
雛人形を作りました。



『新とみ 家族会』

今年は新とみのダイルームを利用し、アットホームな家族会を開催しました。





## ②ボランティア、実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをした。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、詩吟ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれている。特養においても、毎週水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々の協力、支援を受けている。

実習生は、介護職員初任者研修、介護福祉士取得に向けた実習生、教員免許取得実習生を多く受け入れた。本年度も、インターンシップ、中学生ボランティア、イナッコ教室ボランティア(夏休み社会体験)等を積極的に受け入れた。また、本年度は「地域公益活動」の一環として「春休み福祉体験合宿」の取組みがあった。中央区内の社会福祉法人との合同の取組みであり、中学生 2 名に現場実習を体験してもらった。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに大変良質な刺激をもたらせる結果となり、今後も積極的に受け入れてゆく方向である。

表 6 平成 29 年度・実習生等の受け入れ実績

項 目	人 数 (延)
介護職員初任者研修	5 人
介護福祉士取得	10 人
教員免許取得希望者介護体験	66 人
職場体験	17 人
インターンシップ	30 人
中学生ボランティア実習	4 人
イナッコ教室ボランティア	13 人
春休み福祉体験合宿	2 人

## ③入浴・機能訓練

デイサービス利用理由の大きな 1 つとして入浴がある。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は 82.9%である。

また、機能訓練に関しては、本年度も理学療法士、言語聴覚士の配置を厚くし、利用者一人ひとりの心身に寄り添った、きめ細かな個別機能訓練を実施し、自己実現を試みている。

## 4. 特養・デイサービス合同

### (1) 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し、①年中行事委員会、②栄養委員会、③身体拘束廃止委員会、④排泄・褥瘡委員会、⑤ケアプラン委員会、⑥感染症対策委員会、⑦事故防止対策委員会、⑧防災対策委員会、⑨リハビリ委員会、⑩環境・口腔ケア委員会、⑪安全・衛生委員会（介護職のための）⑫ロボット委員会等を開催した。20年2月からは、毎月1回の各委員会の会議を開催している。

### (2) 行事

3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して（前掲表5参照）各種行事に取り組んだ。

### (3) 健康管理

新しく入所する利用者には、入所時に診療情報を提出してもらい、定期診断についても、移動診断を依頼し、館内にてレントゲン撮影等を受診した。また、11月にはインフルエンザ予防接種の同意を得られた方について嘱託医による実施をした。同時に、適度な室温と湿度の維持、消毒液による手指の清掃等の取り組みを徹底した。日常のケアについても、嘱託医による週1回の往診、精神科医による月2回の往診、歯科医、歯科衛生士の定期的な口腔ケア、更に診察が必要な方については、通院の便宜を最大限図るようになっている。

### (4) 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在2名の職員が入団している。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めた。また、新規に採用された職員については、消防機器訓練を随時実施している。さらに、京橋消防署への研修参加のほか、地域等の協力も得て、毎月一回「震災・消防訓練」を実施している。

### (5) 職員研修

4月～3月：毎月1回 早朝研修、夕方研修

4月～3月：育成支援事業：登録講師派遣事業（東京都福祉人材センター）研修

12月～1月：白十字による講師派遣研修

4月～3月：幹部、リーダー層を中心とした社外研修

1月：東京都消費生活総合センター 出前講座

表7 社内研修

No.	名称	開催日	人数	備考
	早朝研修 7:30～8:00 夕方研修 18:00～19:00	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	リスクマネジメント・嚥下について	4/3	15 人	特養 4 人 7:30～8:00 デイ 11 人 18:00～19:00
3-2	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケア・スキンケア	5/1	13 人	特養 4 人 デイ 9 人
3-3	平成 28 年度 事業報告	6/5	13 人	特養 5 人 デイ 8 人
3-4	目標管理について	7/3	11 人	特養 4 人 デイ 7 人
3-5	脱水・熱中症・水分補給について	8/7	11 人	特養 4 人 デイ 8 人
3-6	個人情報保護について	9/4	11 人	特養 4 人 デイ 7 人
3-7	身体拘束廃止について	10/2	11 人	特養 4 人 デイ 8 人
3-8	ノロウイルス・インフルエンザ感染症の予防	11/6	14 人	特養 4 人 デイ 10 人
3-9	記録の書き方	12/4	13 人	特養 4 人 デイ 8 人
3-10	事故予防への取組み	1/8	11 人	特養 5 人 デイ 11 人
3-11	認知症の利用者を理解する	2/5	12 人	特養 4 人 デイ 11 人
3-12	福祉サービスにおける苦情解決について	3/5	13 人	特養 4 人 デイ 11 人
	登録講師派遣事業 新人研修・振り返り研修			
3-13	記録の書き方	9/1	13 人	特養 8 人(新人 3) デイ 8 人(新人 1)
3-14	ポジショニングについて	12/13	20 人	特養 9 名(新人 3) デイ 11 人(新人 2)

3-15	排泄ケアにおける感染症予防	12/18 12/19 1/11	24人	特養 12人(新人3) デイ 12人(新人2)
3-16	出前講座 高齢者を狙う悪徳商法	1/12	13人	特養 5人 デイ 8人



社内研修 デイサービス



社内研修 特養

表8 社外研修・講演

No.	名称	開催日	人数	備考
4-1	「介護ロボットの導入を通じた介護現場の変革」	4/27	4人	主催：民進党「第4次産業革命小委員会」 講師：石川 理事長
4-2	介護ロボット導入実践発表会	5/20	1人	主催：浦和大学 講師：石川 理事長
4-3	介護施設経営者のための安全衛生対策セミナー	6/6	1人	主催：中央労働災害防止協会
4-4	人材育成セミナー「職員定着率NO.1」	7/12	1人	主催：中央区介護保険サービス事業者連絡協議会 東京海上日動ベターライフサービス
4-5	「健康・医療・介護戦略について」	7/14	1人	主催：福祉社会総合研究所
4-6	「介護ロボットの現状と今後」	7/28	1人	主催：ATC エイジレスセンター実行委員会 講師：石川 理事長



4-7	ロボット・ICT 導入による介護スタッフの負担軽減策	8/1	1 人	主催：日経ヘルスケア 東京会場 講師：石川 理事長
4-8	ロボット・ICT 導入による介護スタッフの負担軽減策	8/4	1 人	主催：日経ヘルスケア 大阪会場 講師：石川 理事長
4-9	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	8/28	1 人	主催：東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護センター
4-10	経営者セミナー 「クレーム対応」	9/8	1 人	主催：介護労働安定センター
4-11	「社会栄養学の勧め」	9/19	1 人	主催：福祉社会総合研究所
4-12	「韓日少子高齢化社会政策研究セミナー」	9/29	1 人	主催：韓国大使館 講師：石川 理事長
4-13	「医療・介護改革の動向と課題」	11/17	1 人	主催：福祉社会総合研究所
4-14	福祉機器活用推進大会 「ICT と介護ロボットで創る新しい介護のありかた」	11/18	1 人	主催：富山県介護実習・普及センター 講師：石川 理事長
4-15	「BCP(事業継続計画)実践型ワークショップ I」	11/21	1 人	主催：中央区介護保険課 東京海上日動
4-16	介護職員の人材育成・定着セミナー	11/24	2 人	主催：東京都介護職員キャリアパス導入促進事業
4-17	「AI について」	12/9	1 人	主催：浦和大学 講師：石川 理事長
4-18	「BCP 実践型ワークショップ II」	12/11	1 人	主催：中央区介護保険課 東京海上日動
4-19	採用力「採用が厳しさを増す中、教化と実践のためのノウハウ」	1/30	1 人	主催：介護労働安定センター
4-20	口腔ケア研修会 「摂食嚥下に関する講演会」	3/28	6 人	主催：中央区京橋歯科医師会

#### (6) 視察・取材

本年度も前年度に増して、施設の視察、取材に、国内外多くの方が訪れた。年間を通しての視察・取材は 104 件である。

国外からの視察・取材は中国、台湾、韓国、アメリカ、ドイツ、フランス、中東欧等多国に渡った。目的は主に介護ロボット、リハビリロボットであったが、日本のロボット開発技術から AI にいたるまで、年々海外からの関心の高まりが感じられた。

また、本年度はコミュニケーションロボット、見守りロボットへの関心も高く、施設の中でどのように活用されているのか、多くの注目を集めた。



サンディエゴ大学 学生 来苑



露ゴロジエツ副大統領 来苑



韓国 外務省 来苑



米国トーマスプライス氏 来苑



蘭厚生省局長来苑



モーリーロバートソン (NHK) 来苑



イスラエル大使館 次官来苑



## (7)介護ロボットへの取組み

平成 28 年度に続き、平成 29 年度においても、厚生労働省所管「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会設置事業」に参加した。

介護ロボットの解決すべき課題(ニーズ)を明らかにし、それを解決するための技術(シーズ)とマッチングさせ、施設における介護業務の中で、より効果的な介護ロボット等の開発が促進できるよう、そして今後の介護ロボット普及・活用推進のため、その役割を担うべく、実証試験に取り組んだ。

### ①排泄支援

- ・排泄予知デバイス「Dfree」 3台

排泄予知デバイスの活用により、利用者の排泄パターンを検知し、排泄介護における介護業務の負担軽減と、利用者サービス(排泄の自立と不快感の解消)の品質向上を目標とした。



### ②移動支援

- ・移動アシスト RT-2
- ・移動アシスト J-MAX (階段昇降機)

移動アシスト RT-2、J-MAX を活用することで、屋内外での行動範囲を拡大することが可能となり、高齢者の活動・参加の自立維持、向上が図られることを目標とした。



移動アシスト RT-2



移動アシスト J-MAX

## (8) 地域公益活動

### 東京子育て応援事業

平成28年6月～29年3月末の2ヵ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできた。新とみ、みさよはうす土支田との協働事業である。

#### 【目的】

子どもの貧困、孤食が社会問題化される中、地域の子どもの安全・安心な居場所づくりとして、学習支援「そろばん教室」と、孤食や子育て負担を緩和する支援として「子ども食堂」の運営を行う。

1. 「テーマ」 そろばん教室とみんなで食事
2. 実施場所 新とみ デイルーム
3. 実施日時 毎週日曜日 16:30～18:30
4. 平成28年度参加人数(延べ人数) 245名  
平成29年度参加人数(延べ人数) 471名

2ヵ年にかけての事業は、報告書として東京都より刊行された。今後も引き続き「子育て応援事業」の運営に取り組んでゆく。





## ウィング訪問ケアステーション

はじめに

平成 28 年 3 月 1 日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設した。本年度も新規の利用者開拓に力をいれ、パンフレット、チラシ等を配布し、近隣の居宅介護支援事業所に働きかけた。

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. サービス提供時間 | 8 時 30 分～18 時（時間外については応相談）                            |
| 2. 実地地域     | 中央区、港区、千代田区、江東区                                       |
| 3. 利用者数     | 24 名  |
| 4. 新規利用者数   | 10 名  |
| 5. サービス内容   | 身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等<br>生活支援：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等 |

表 9 要介護度別利用者数

要介護度	利用人数	延 数
要支援 1	1 人	51 人
要支援 2	1 人	12 人
要介護 1	4 人	104 人
2	4 人	501 人
3	6 人	436 人
4	2 人	16 人
5	7 人	1,240 人

表 9 にあるように、要介護 3 以上の介護度の高い利用者が半数以上を占める。現在、サービス提供責任者 1 名と訪問ヘルパー 2 名を中心とし、中央区を拠点としてサービスを実地している。サービス内容においては、利用者の生活に寄り添ったきめ細やかな内容であり、特に介護度の高い利用者へのサービスは、様々なサービス提供事業者との連携が必須であり、常に情報共有に務め、安全、安心なサービスの提供を行っている。また、訪問サービスの他、当事業所のデイサービス、ショートステイも利用している利用者は 6 名である。地域のニーズとして、訪問・デイサービス・ショートステイと、トータルなサービスの構築を図ることが重要である。

今後、時代のニーズに対応できるだけの体制を整え、研修を始めとした教育の充実を図り、質の高いサービスの提供をめざしてゆく。

## ウィング居宅介護支援事業所

はじめに

平成28年9月1日、新とみ併設として「ウィング居宅介護支援事業所」を開設した。本年度は、京橋おとしより相談センター、月島おとしより相談センター等を主に営業活動を行った。更に「出張（無料）介護相談会」を開催し、地域の相談ニーズの掘り起こしを図った。

### 《出張（無料）介護相談会》

- ①日 時 平成28年12月10日（土）10：30～15：00
- ②場 所 築地永谷コーポラス 貸教室
- ③趣 旨 介護保険サービス、及び相談ニーズがあるにも関わらず、外部との接触機会が少なく、情報入手が困難により円滑なサービス利用ができない方々のために、専門の職員が集合住宅の集会所等に出張して、相談業務を行い、円滑にサービスが受けられるように支援する。

### 《平成29年度に開催した出張介護相談会》

- ・ 平成29年4月 新宿区・戸山ハイツ
- ・ 平成29年5月 新宿区・戸山ハイツ
- ・ 平成29年5月 中央区・勝どき6丁目住宅

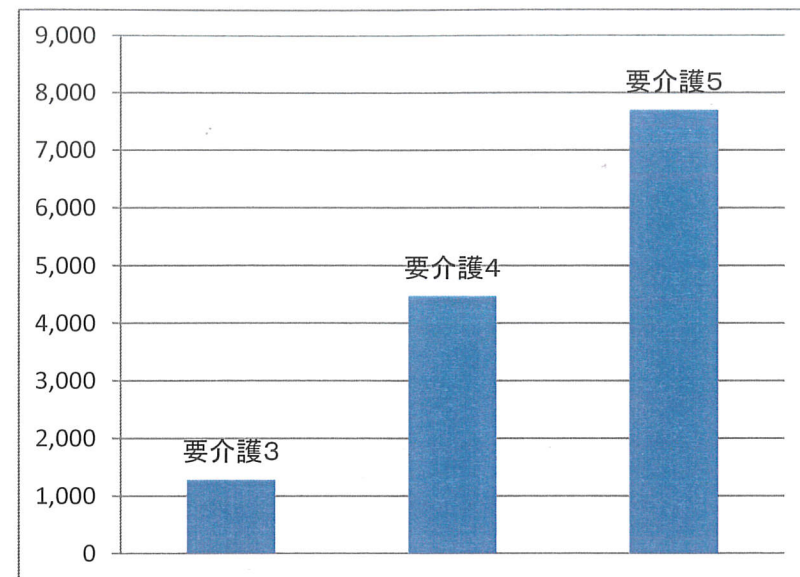
今後、居宅介護支援事業所は新宿へ移行の予定である。

(別表1)

## &lt;年度末平均年齢&gt;

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
特養	男	5名	85.4	78～90
	女	34名	87.9	77～98
	(全体)	39名	87.6	77～98

(別表3)



(別表2)

## &lt;月別利用者の状況&gt;

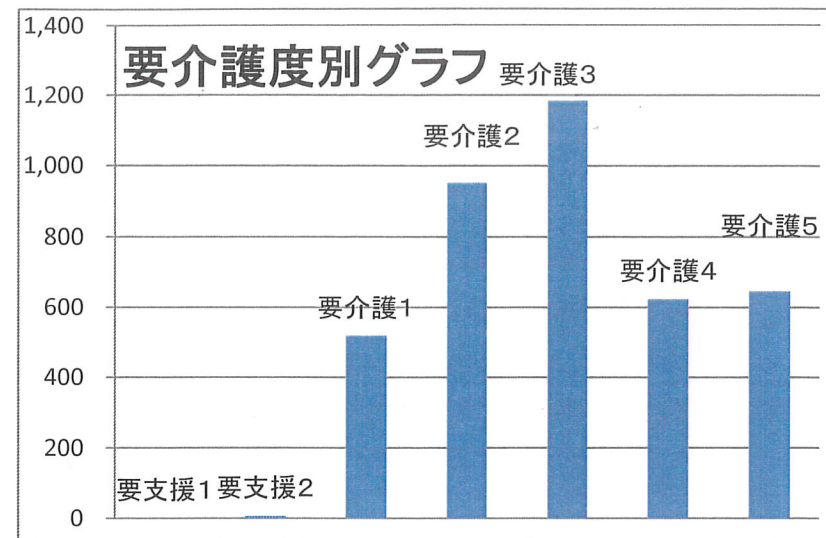
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
特養 (定員40名)	要介護3	120	124	120	124	124	90	93	90	93	93	84	1,279	
	要介護4	363	369	360	373	367	420	403	376	381	377	336	4,466	
	要介護5	534	602	608	633	676	643	686	653	639	694	614	7,699	
	計	1,017	1,095	1,088	1,130	1,167	1,153	1,182	1,119	1,113	1,164	1,034	1,182	13,444
	要介護平均	4.41	4.44	4.45	4.45	4.47	4.48	4.50	4.50	4.49	4.52	4.51	4.50	4.48
	実人員	38	37	37	38	39	39	39	39	39	40	39	39	463
	述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240	14,600
	1日平均利用者数(人)	33.9	35.3	36.3	36.5	37.6	38.4	38.1	37.3	35.9	37.5	36.9	38.1	36.8
	稼働率	84.75%	88.31%	90.67%	91.13%	94.11%	96.08%	95.32%	93.25%	89.76%	93.87%	92.32%	95.32%	92.08%

(別表4)

## &lt; 年度末平均年齢 &gt;

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
ショートステイ（介護予防含む）	男	16名	82.1	61～94
	女	22名	81.1	73～100
	(全体)	38名	82.8	61～100

(別表6)



(別表5)

## &lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1													0
要支援2					4		2						6
要介護1	63	24	44	67	42	76	59	48	27	28	28	12	518
要介護2	61	100	89	70	63	58	79	54	102	86	99	91	952
要介護3	172	178	135	148	137	53	68	54	47	54	64	75	1,185
要介護4	55	58	18	48	30	25	49	68	65	47	71	89	623
要介護5	52	35	70	34	47	57	56	68	82	79	27	39	646
計	403	395	356	367	323	269	313	292	323	294	289	306	3,930
要介護平均	2.93	2.95	2.95	2.76	2.90	2.74	2.87	3.18	3.23	3.21	2.90	3.17	2.98
実人員	47	47	39	42	39	35	36	34	33	36	40	38	466
延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
1日平均利用者数(人)	13.4	12.7	11.9	11.8	10.4	9.0	10.1	9.7	10.4	9.5	10.0	9.9	10.8
稼働率	223.89%	212.37%	197.78%	197.31%	173.66%	149.44%	168.28%	162.22%	173.66%	158.06%	172.02%	164.52%	179.45%

ショートステイ（介護予防含む）（定員6名）

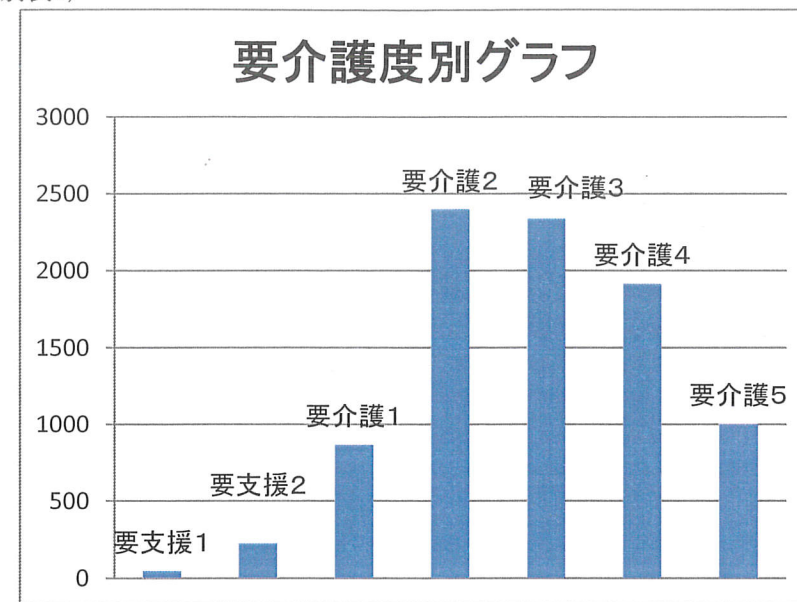


(別表7)

## &lt;年度末平均年齢&gt;

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
デイサービス 予防含む (介護)	男	44名	79.3	60～96
	女	37名	81.0	59～94
	(全体)	81名	80.1	59～96

(別表9)



(別表8)

## &lt;月別利用者の状況&gt;

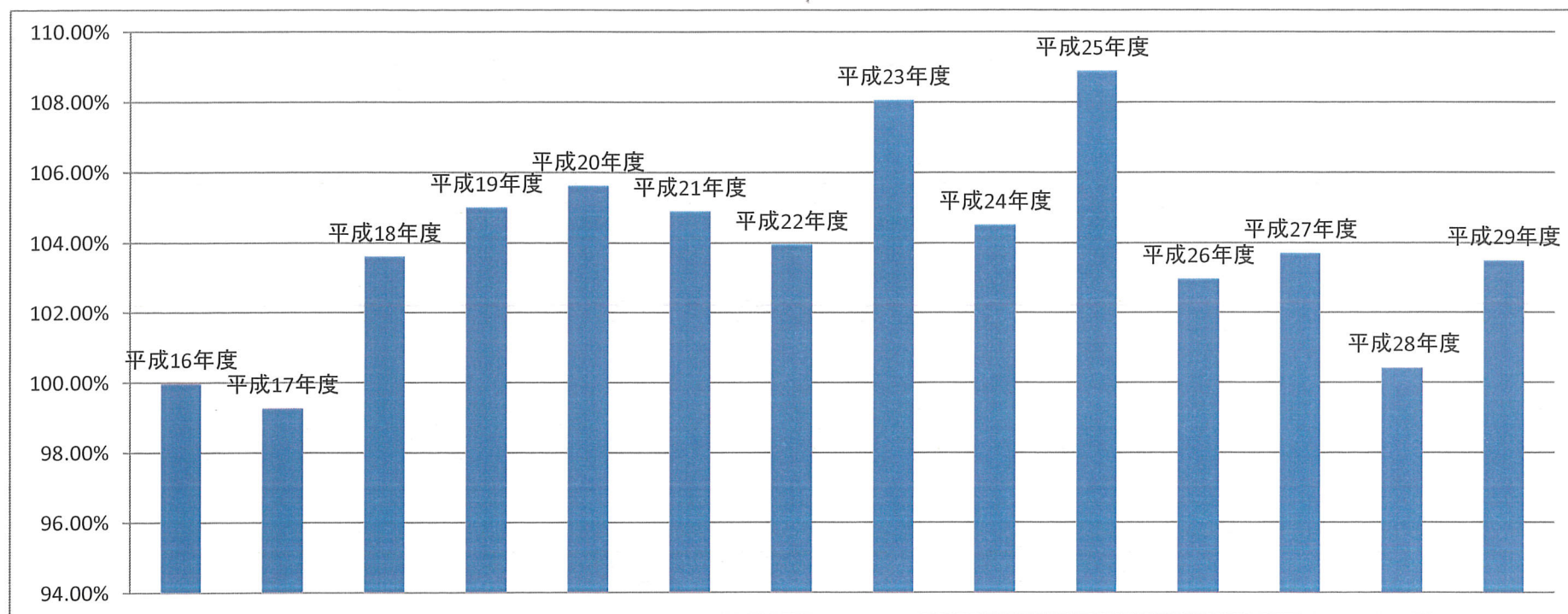
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	5	4	5	4	4	7	6	6	4				45
要支援2	12	14	13	14	22	21	22	20	21	22	22	22	225
要介護1	93	82	89	76	64	63	65	87	72	67	56	55	869
要介護2	244	240	231	219	192	187	186	162	173	184	184	195	2,397
要介護3	205	282	259	244	228	190	183	173	158	165	118	132	2,337
要介護4	167	164	154	158	159	157	182	152	148	171	150	153	1,915
要介護5	92	100	98	103	90	109	83	63	67	57	62	82	1,006
計	818	886	849	818	759	734	727	663	643	666	592	639	8,794
要介護平均	2.86	2.91	2.88	2.94	2.95	3.00	2.96	2.83	2.86	2.88	2.89	2.95	2.91
実人員	102	103	96	94	92	94	94	90	88	92	84	81	1,110
述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	952	1,054	12,410
1日平均利用者数(人)	27.3	28.6	28.3	26.4	24.5	24.5	23.5	22.1	20.7	21.5	20.4	20.6	24.1
稼働率	80.20%	84.06%	83.24%	77.61%	72.01%	71.96%	68.98%	65.00%	61.01%	63.19%	62.18%	60.63%	70.86%

※平成27年12月22日より、定員38名から34名へ変更

(別表10) &lt;月別稼働率&gt;

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養・ショート (定員46名)	特養	1,017	1,095	1,088	1,130	1,167	1,153	1,182	1,119	1,113	1,164	1,034	1,182	13,444
	ショートステイ	403	395	356	367	323	269	313	292	323	294	289	306	3,930
	計	1,420	1,490	1,444	1,497	1,490	1,422	1,495	1,411	1,436	1,458	1,323	1,488	17,374
	延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
	稼働率	102.90%	104.49%	104.64%	104.98%	104.49%	103.04%	104.84%	102.25%	100.70%	102.24%	102.72%	104.35%	103.48%

(別表11)



稼働率	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	99.96%	99.26%	103.59%	104.99%	105.61%	104.88%	103.93%	108.05%	104.50%	108.88%	102.96%	103.69%	100.42%	103.48%